



2024年8月20日
東日本旅客鉄道株式会社
JR東日本メカトロニクス株式会社
三菱電機株式会社

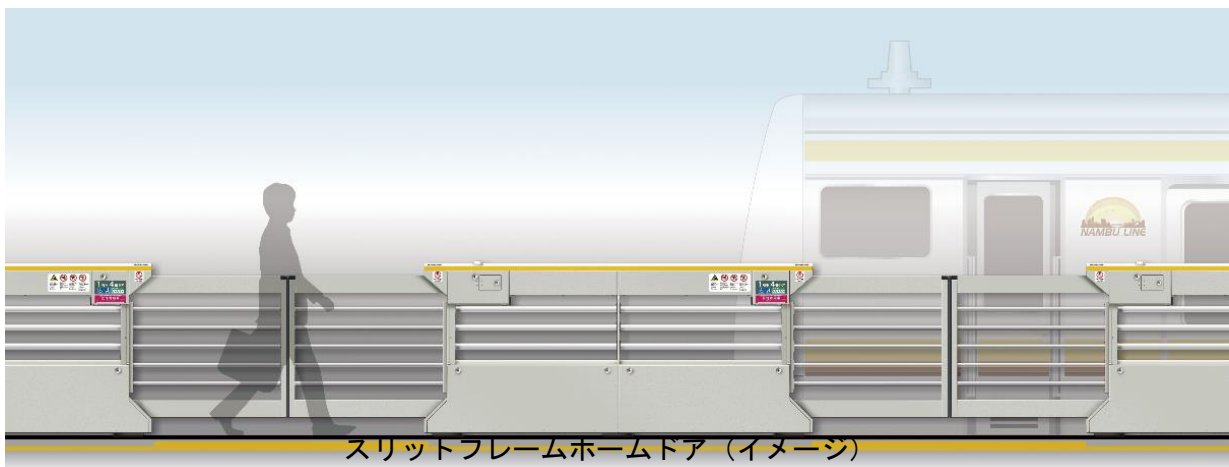
スリットフレームホームドアの導入開始について

- JR 東日本では、お客さまと列車との接触や線路への転落を防止する対策として、2031年度末頃までに東京圏在来線の主要路線 330 駅 758 番線にホームドアを導入することを目指しております。
- ホームドア整備の促進を目的として新型の「スリットフレームホームドア」の開発が完了し、導入の目途がついたことから、2024 年度下期より従来型のホームドアの後継機として導入します。
- 今後も継続して、より安全な駅ホームの実現に向けて、整備目標の完遂を目指してまいります。

(新型ホームドアの実環境試験について : https://www.jreast.co.jp/press/2021/20211110_ho02.pdf)

1. 概要

これまで、従来型のホームドアとスマートホームドアを活用し、ホームドア整備を促進してまいりました。このたび、従来型のホームドアの後継機となる、スリットフレームホームドアを開発し、2024 年度下期より導入していきます。スリットフレームホームドアでは、従来型と比較して、安全性を維持するとともに設置コストの削減やメンテナンスの効率化が期待できます。今後も、駅やホームの特徴を踏まえ、最適なホームドアの整備を推進いたします。



* スリットフレームホームドアは三菱電機(株)により意匠登録された製品です

2. 「スリットフレームホームドア」の特長

(1) 施工性

- ・従来型のホームドアと同様の形状により安全性を維持しつつ、扉や戸袋をスリット化して風が抜ける構造とすることでホームおよびホームドア支持部の風圧影響を従来型から約40%軽減し、ホームの補強工事など設置工事の簡素化が期待できます。
- ・据付構造や制御システムについて従来型のホームドアと互換性を持たせており、従来型と組み合わせて使用することや、工事設計・施工の効率化が期待できます。

(2) 保守性

- ・メンテナンス周期の延長や削減を実現する保守性に優れた部品や機構を新規採用することで、メンテナンス性が向上し、保守作業の省力化・効率化が期待できます。




3. 設置予定駅

2024年度 南武線分倍河原駅（1・2番線）、登戸駅（2番線）

以降、順次導入予定

* 詳細な使用開始時期は決まり次第、駅のポスターなどでお知らせします。

【参考:各ホームドアとの比較】

	従来型のホームドア	スリットフレームホームドア	スマートホームドア
外観			
方式	腰高式ホーム柵	腰高式ホーム柵	腰高式ホーム柵
ドア形状	壁構造	フレーム構造	フレーム構造
標準開口幅 (現行)	2,000mm (最大3,330mmまで対応※) ※多段式ドアによる大開口	2,000mm (最大3,330mmまで対応※) ※従来型との組合せによる大開口	2,000mm (最大2,900mmまで対応)
外観寸法	・筐体高さ: 1,289mm ・ドア高さ: 1,189mm ・下部隙間: 139mm	・筐体高さ: 1,284mm ・ドア高さ: 1,194mm ・下部隙間: 134mm	・筐体高さ: 1,284mm ・ドア高さ: 1,212mm ・下部隙間: 270mm
重量	約400kg	約282kg	約195kg
耐荷重	・水平・垂直荷重: 980N/m ・水平瞬時荷重: 2,450N/m	・水平・垂直荷重: 980N/m ・水平瞬時荷重: 1,800N/m	同左
安全機能	・居残り検知 ・戸当たり検知 ・引込み検知	同左	同左

